

九州産業考古学会報

第6号 2006年6月1日発行 発行元：九州産業考古学会

日炭高松二坑旧山神社の鳥居保存活動に思う

瓜生浩義（日炭高松OB・水巻町郷土史会）



大正に生まれ齡 80 を超えたが、九州産業考古学会の見学会などでは若い会員に混じって、日々楽しく勉強させてもらっている。おそらく最年長ということから此の度寄稿を求められたので、お言葉に甘えて拙文を弄させて頂きたい。私は戦前から長く日本炭硯高松炭坑（福岡県遠賀郡水巻町）に勤務したが、多賀山の中腹に鳥居があり、その奥に大山祇神社いわゆる「山の神」が奉られていた。日炭が閉山してから 35 年、その間に神社も壊れたが、山神社鳥居は水巻

の町の歴史を象徴して立っていた。

日本炭坑は鮎川義介が昭和 9 年に三好鉱業を買収して設立したものだが、その後発展して、「日本化学工業株式会社」となって日産コンツェルンの一翼を担うに至った。昭和 12 年に建設された鳥居には同社名が刻銘されている。その 3 年後には鳥居下の坑口から年産 100 万トンが掘られたが、これは一坑口からの出炭としては日本一で、この年水巻は村から町になっている。事ほど左様に、鳥居は炭硯マンの心の古里であった。職場の安全、結婚出産の慶事、武運長久の祈願、神社前広場の夏越まつり等々、ここで生まれここが古里となった炭鉱労働者の家族子弟の毎日を見守ってきた鳥居であった。

それが今から 5、6 年前、多賀山の中腹に町立図書館を建設するのに鳥居が邪魔になるから、これを撤去して粉碎するという話が持ち上がった。もちろん我々は鳥居を保存すべきであることを訴え、署名も集めたのだが、遺憾にも撤去されてしまった。「保存する会」は撤去の前日お別れの会を催し、私は万感の思いを込め「告別の辞」を朗読した。

扁額だけは破壊を免れたものの、柱は解体され野ざらしにされている。心無い文化財行政の有様が天下に曝されているのである。私は心からの怒りを覚える。九州産業考古学会には、産業遺産と産業文化の尊重に向けて、一層の活躍を期待してやまない。

【報告】 九州伝承遺産ネットワーク協議会設立 その理念と方向

坂本道徳（「軍艦島を世界遺産にする会」理事長）

小会「軍艦島を世界遺産にする会」では、産業遺産を活用することによって生活と労働の記憶の保持・再生を図り、その文化を然るべく後世に伝えたいと考えて活動してきた。しかしその思いを実現するためには、一地域、一遺跡の保存運動にとどまることなく、九州全体の視点から、いわば「九州遺産」のひとつとして軍艦島（端島）の保存活用の意義が評価され位置づけられる必要があると思うに至った。そのためには九州各地で活動、研究している人々のネットワークを早急に構築する必要があると考え、各地に呼びかけたところ賛同が得られたので、今年（平成18年）2月、関係者が長崎に集まって、「九州伝承遺産ネットワーク協議会」を設立した。

小会が全九州的なネットワークの設立を呼びかけた思いを改めてここで明らかにしておきたい。よく知られているように、江戸時代、長崎はわが国唯一の海外との接点であった。海外から多くの文物が日本に持ち込まれるとともに、日本の文化が海外に発信される窓口であった。そのことがあって、明治になってからも長崎は、いち早く当時世界最先端の産業技術を導入し、わが国近代化の牽引力となった。わけても軍艦島は三菱財閥により開拓された炭坑の島であり、日本の近代化のみならず、戦後の復興にも多大の貢献を果たした。しかし21世紀初頭の現在、戦前の産業施設の多くはすでにその役割を終えている。軍艦島も例外ではなく、1974年に廃坑となって、島民は全て島を退去し、島は廃墟と化して記憶も風化しつつある。

改めて周囲を見回してみると、長崎だけでなく九州各地にはこうした産業遺産が今

なお数多く散在している。そこには忘れ去られていいこともあれば、忘れられてはならず、ぜひとも語り継がれてほしいこともある。現地にある遺跡や遺構は歴史の証人として、また教材として貴重である。そのような後世に継承、伝承すべきものは、広く「伝承遺産」と呼ばれていいかと思う。

しかし、貴重な伝承遺産もほとんどが経済的価値を生まないとして放置され、むしろそれを抱える国家や自治体からは厄介者扱いされているのが現状である。伝承遺産が朽ちるに任されているのか。否、そうであってはならない。先人の苦勞と努力と知恵が残してきた遺産を、我々は大切に維持し多くを学んでいかなばならない。高齢化社会の到来が言われているが、今こそ世代のつながりが必要なときである。それを我々は地域のつながりにまでしたいと思う。

上のような理念から、九州伝承遺産ネットワーク協議会はスタートした。参加した団体は、軍艦島を世界遺産にする会、かごしま探検の会、北九州 COSMOS クラブ、大牟田・荒尾炭坑のまちファンクラブの4つ、それと長崎・福岡・熊本・鹿児島各県で産業遺産を活用したまちづくりに取り組んでいる7団体等である。さらにオブザーバーとして九州観光推進機構、九州産業活性化センター、鹿児島地域経済研究所、及び大学関係の有識者に加わってもらっている。いずれもネットワークを九州全域に広げて行くことで一致した。今後は、産業遺産を含む伝承遺産を利用した九州観光ルートづくり、保存活動の協力体制の強化、伝承遺産のデータベース化等の活動を展開していくことになっている。伝承遺産の保存・活用に向けた取り組みと連携を、九州全域に広げたいと願っている。

【報告】

九州伝承遺産ネットワークの発足を祝して
幸田亮一（熊本産業遺産研究会事務局長）

九州新幹線が数年後には全線開通し、九州の一体感が強まることが予想される現在、「九州伝承遺産ネットワーク」が発足したことは、まことに時宜を得た一歩です。志免炭鉱や旧伊藤伝右衛門邸の公的保存が決定したり、「大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ」が万田炭鉱館の管理者に指定されるなど、嬉しいニュースが相次いでおり、「九州の産業遺産を世界遺産に」という動きも加速化することでしょう。

さてその九州の中央部にある熊本では、旧熊本紡績工場、旧日本セメント八代工場、熊本駅機関車庫等々、明治・大正の産業遺産が相次いで消失しつつあるのが現状です。旧熊本紡績のレンガ建築物の保存運動をきっかけに発足した熊本産業遺産研究会ですが、その活動も4年目を迎えました。年数回の見学会を行なっていますが、昨年夏には産業考古学会の川上顕治郎会長に講演して頂くなどして、当地産業遺産の保存と宣伝に努めています。

本ネットワークの発足を機に、私たちも熊本だけでなく九州全体にも目を配りたいと思います。江戸時代の石橋群や近代土木遺産、近代建築物などを中核とする熊本のヘリテージは全九州にも通じるもので、これらをさらに日本全国・アジア・世界へと発信していきたいと思っています。今秋には、九州伝承遺産ネットワークのシンポジウムを当地で開催させて頂く予定で、熊本まちなみトラストや熊本大学五高記念館、同工学部資料館等の協力も取り付けつつ準備を始めているところです。皆様方にもこれから何かと依頼することが増えるかと思いますが、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

【報告】

NPO法人大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ活動紹介 永吉守（法人運営委員）

当会は、三池炭鉱の地域資源および文化遺産を保存・活用し、後世に伝えていこうとする団体です。私たちが活動を始めたきっかけは、ある個人の方のWEBサイト(ホームページ)でした。そこには三池炭鉱の閉山を機に、かつての懐かしい写真が多数掲載されていました。サイトに集まる人々の輪がいつのまにか広がり、その輪から、現に自分たちの住むこの町で、具体的に炭鉱跡地などの地域資源を保存・活用していく団体をつくろう、という話が盛り上がり、「炭鉱のまち」の心象風景を次世代に継承する「大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ」が結成されるに至ったものです。

炭鉱施設や炭鉱関連施設を歩く「 Tanto Tanto ウォーク」、修学旅行や団体にガイドを行う「ガイドツアー」、地域資源の保存・活用運動などが活動の中心で、その実績が認められて最近では万田炭鉱館の指定管理者となり、また大牟田市石炭産業科学館の企画業務に参画するなど、活動が本格化してきました。

今回のネットワークの発足を契機に、今後は九州全域の旧産炭地の産業遺産関連の団体と連携し、「産業遺産の島」九州を世界へとアピールしていきたいと考えています。産業遺産だけでなく、他の伝承遺産とのコラボレーションにより、さらに楽しい「仕掛け」も作っていききたいと思います。皆様のご支援・ご協力よろしく申し上げます。

【報告】

旧伊藤邸、飯塚市が買上げ保存へ

深町純亮（麻生資料室）

平成 17 年（2005 年）11 月、飯塚市は幸袋にある旧伊藤伝右衛門邸を買上げることを選んだ。本邸は、昭和 38 年に（株）幸袋工務所（創業者伊藤伝右衛門）の全株式を日鉄鉱業（株）が取得した際、伊藤家から日鉄側に譲渡され、以来両社のクラブとして使用されてきた。明治末期に建設された建坪 280 坪、土地 1500 坪という由緒ある豪邸であるが、これが社用施設としては老朽化したことから、買上げてもらえないかとの話が、平成 13 年に日鉄から飯塚市に持ち込まれた。

市側は財政状況が厳しく、会社が要求する金額ではとても応じられないことから無償譲渡を要請するなど、当初から交渉は暗礁に乗り上げてしまった。買上げが実現しなければ、建物を取り壊して更地にして売却する、というのが会社側の意向であった。

石炭で栄えた筑豊地方において、関連する産業遺産が風化消滅の一途をたどりつつあるこんにち、この貴重な産業文化遺産を失ってはならない、との気運が市民のあいだに盛り上がり、平成 14 年には飯塚市内外の 36 団体は「旧伊藤伝右衛門邸の保存を願う会」（代表、深町）を結成して活動に入った。各種のイベントを通じて趣旨を説明していったところ、署名は 3 万人近く集まり、募金の方もはかどるなど、運動は盛り上がっていった。

九州産業考古学会の木元富夫会長は、飯塚に来て、飯塚市と日鉄鉱業に本邸の保存・活用を求める要望書を提出したほか、福岡県知事にも支援を要請した。また平成 16 年秋には、小説「白蓮れんれん」の著者林真理子氏を招いて嘉穂劇場で講演会とシンポジウムを開くなど、各般の運動が展開された。

旧伊藤邸は近代和風建築を代表する建物であり、石炭産業が残してくれた大きな文化遺産でもある。東京大学の藤森照信教授は、この「筑豊の石炭王と筑紫の女王の屋敷」の優美を絶賛されているし、地元近畿大学の川上秀人教授は、これは「国の重要文化財に指定される価値のある建物。市は無理をしても買い取らないと、全国に恥をさらすことになる」とまでいわれた。このような建築学上の貴重さもさることながら、加えて女流歌人柳原白蓮が十年間起居した佇まいがそのまま残されているという文化史的意義も特筆されねばならない。

「保存を願う会」は、飯塚市や会社に要望書や嘆願書を出して、かかる文化財的価値はもちろん、企業と地域の長期に渡った関係なども述べて説得にあたったが、会社側も最終的にその趣旨を諒解され、土地のみを有償で、建物は無償で市に譲渡することで決着したのである。かくて本邸が公共的に活用される方向が決まったことは喜びに堪えない。

優秀な国家や民族は、文化に惜しみなく金を注ぎ込んでいる。自治体はどこも厳しい財政状況にあるが、それでも高い志によって守られた例として、身近な石炭絡みだけでも、直方市の歳時館（旧堀三太郎邸）、北九州市の西日本工業倶楽部（旧松本健次郎邸）、荒尾市の宮崎滔天兄弟生家復元、東峰村のいぶき館（旧宝珠山炭坑クラブ）などがある。

旧伊藤邸は、今春の譲渡手続きのあと部分的改修補強工事を行ない、来春から（平成 19 年春の雛祭りにあわせて）一般公開されることになる。邸内にはぜひ白蓮や伝右衛門の資料館を設けてもらいたいと思う。その活用法について官民が知恵を出し合い、ここが筑豊の文化センターとして長く親しまれ愛されるようになってもらいたいと願っている。

【報告】

高蔵山堡壘探訪記

砂場一明（会員）

北九州に珍しく雪が降り積もった立春の翌日（2月5日）、足立山山系の高蔵山奥深く築かれた明治中期の軍事遺跡「高蔵山堡壘」跡の見学会を、会員有志と一般参加者併せて9名で実施した。この堡壘は下関要塞砲台の一つとして、周防灘から上陸してくる敵に対し射撃できるように構築されたもので、文字通り世紀末の明治33年（1900）12月に竣工している。砲備は小型要塞砲12門が配置されていたが、明治末期には要塞整理で廃止され、砲音を一度も響かせることなく短い生命を終えている。

目指す堡壘跡は、小倉南区沼本町から山側に入り、車数台を連れ山道を登り始めたが、崖崩れのため道路が埋没しており走行不能で行き止まり。しかも、唯一の道案内（筆者）も頼りなく、行く手に不安を抱いたまま歩く羽目となった。昨日来の雪が残る細い道を黙々と進んで行くうち案内人も記憶を取り戻し、あとはスムーズに目的地まで辿り着くことができた。延々と続く薄暗い山道が突然広場になり、その正面に出現した8連の堡壘倉庫群には、誰もが思わず「おっ」と声があがる。赤煉瓦とコンクリートで造られた堅牢な倉庫内は通路が相互に繋がり、西洋の古城を思わせるようだ。

雑木林と化した堡壘周辺には、多くの半地下倉庫や砲座跡とみられる窪地・階段・貯水施設、その他使用目的さえ判断しかねる遺構が夥しく点在している。百余年もの風雪に耐えたとは思えぬ美しい意匠と、ほぼ当時のままの原形を留めている存在感に、時が経つのも忘れて探索は続いた。

高蔵山を下山し、帰路のついでに旧東京第二陸軍造兵廠曾根製造所（毒ガス弾充填工場）・旧小倉兵器補給廠倉庫群等を見学す

るも、場所が場所だけに立ち入ることはできず、外観のみ確認するに止めた。いずれ九州産業考古学会として正式に申請して見学してみたいものである。最後に、小倉北区黒住町の旧小倉陸軍造兵廠職員住宅に立ち寄ってみた。

当初は、戦後民間に払い下げられ“黒原営団”と称される二軒棟続き木造平屋住宅群であった。今では大半が建て替えられているが、往時の面影が残る住宅も僅かに現存していた。

実はここは筆者が小学生時代を過ごした場所でもあり、その当時朝日新聞社に勤務する無名時代の松本清張も居住していた。芥川賞を受賞した「或る『小倉日記』伝」は、ここで書かれたものと思われる。

戦争遺跡は全国に数万カ所あるといわれながら風化が進んでいるが、保存運動もここ数年各地で活発になってきている。文化庁も平成14年（2002）から「軍事に関する遺跡」調査にやっと着手したが、国や自治体が文化財に指定・登録した戦争関係の遺構・遺跡は102件にすぎない（平成17年8月現在）。軍都といわれた小倉を中心に、北九州は近代軍事遺跡の宝庫でもある。負の遺産とはいえ、見学した軍事関連遺構は、歴史を現代に繋ぐ貴重な証言者でもある。今回の見学会は演習さながらの強行軍ではあったが、高蔵山での童心に返った会員たちの顔が印象的であった。



写真 高蔵山砲台施設

【お知らせ】
書籍・文献紹介

九州の産業遺産に関連する最近の資料や文献の一部を紹介する。(K T 生)

『佐世保赤煉瓦物語』させば塾(私家版)、2003年。

全国有数の赤煉瓦建築群の大判写真集。

平凡社新書『日本の戦争遺跡』2004年、1200円。

戦後60年を経て失われゆく戦争の記憶を伝える全国の遺跡を紹介している。九州・沖縄地方の遺跡ガイドのほか、参考文献も紹介されているので便利である。

鹿児島県教育委員会『鹿児島県の近代化遺産』鹿児島県、2004年。尚古集成館に代表される鹿児島県の産業遺産を網羅的に調査した報告書である。今後の基本資料となるもので、小会会員も執筆している。それにしても小部数しか印刷されず、大学図書館レベルでも入手が叶わないというやり方は改善してもらいたいものである。

木元富夫『産業化の歴史と景観』晃洋書房、2004年、2600円。

小会会長である著者が産業考古学入門も意図して執筆したもので、前半で産業化の歴史を整理し、後半で産業化の中の景観を北九州の各地に訪ね、その地域文化的意義を検証している。

益田啓一郎編『ふくおか絵葉書浪漫』海鳥社、2004年、2300円。

アンティーク絵葉書に見る明治・大正・昭和の福岡県風俗史で、産業史の観点からも貴重な写真が多い。

国土交通省九州運輸局監修『九州遺産 近現代遺産編101』弦書房、2005年、2100円。

『産業考古学118』で紹介されているが、弦書房(福岡)から一般に発売されている。

南日本新聞社編『鹿児島近代化遺産』南日本新聞社、2005年、1500円。

なお鹿児島市では、「春苑堂出版」社が「かごしま文庫」シリーズを多数発行しており(発売元「春苑堂書店」)、この中に『近代化と鹿児島の建造物』など産業遺産に関連したものがある。

北九州初の総合的産業遺産ガイドとして、小会会員が執筆に加わっている『北九州市の近代化遺産』が弦書房から今秋刊行される予定であることを付け加えておこう。



【お知らせ】

年次総会について

現在、朝倉郡東峰村(旧宝珠山村)「いぶき館」において、「石炭王 伊藤伝右衛門展」が開催されております。

この中で、深町純亮先生による特別講演「柳原白蓮の生涯」が開催されます。

この企画展と講演会にあわせて下記の通り、小会の平成18年度の総会および見学会を開催します。以下に情報を列記いたします。

期日：2006年6月17日(土)

時間：野外見学会：11:00～12:30

総会 13:00～13:40

屋内見学会・講演会 13:50～16:30

総会等会場：山村文化交流の郷 いぶき館

*入館料が300円必要です

野外見学会：日田英彦山線筑前岩屋駅～大行司駅徒歩(約4km)めがね橋(コンクリートアーチ)、大行司駅(開業当初の駅舎)、昭和館(旧宝珠山村役場)、宝珠山炭坑施設(一坑坑口、専用線遺構)

屋内見学会：山村文化交流の郷 いぶき館(旧宝珠山炭坑クラブ)「伊藤伝右衛門展」

講演会：伊藤伝右衛門展特別講演
「柳原白蓮の生涯」
深町純亮氏（元飯塚市歴史資料館長）

交通：JR 日田彦山線大行司駅から徒歩 10 分
（参考例）小倉発 9：09 ～ 筑前岩屋 10:52
～ 大行司着 10：58
（帰り）大行司発 17：05 ～ 小倉着 18：42

* 午前の見学会参加の方は筑前岩屋駅下車
* 付近にはレストラン、コンビニエンスストアがございませんので昼食は予め各自で
ご用意下さい。

会員多くの皆様のご来訪を心よりお待ちしております。



【追悼】

水車を未来に繋ぐ産業考古学を創った人・
香月徳男先生逝く

池森寛（西日本工業大学）

本年 2 月 22 日、日本水車協会会長・香月徳男先生が亡くなられた。79 歳であった。

久留米市の郊外、柳坂の櫓並木を上ると、水車の回る藁葺きの民家がある。玄関を開けると、そこにはいつもベレー帽をかぶった髭の小柄な香月先生の姿があったのを思い出す。ここ香櫓亭は、まさに先生の業績を象徴する場所であった。

香月先生の研究は古民家から始まり、櫓並木の保存など多岐に渡るが、やはり香月といえば水車であろう。先生は、朝倉の揚

水水車群が廃滅の危機にあることを憂い、1979 年夏、国内初の「水車シンポジウム」を開催された。シンポには全国から百余名が集まり、水車の持つ意義が文化的、経済的、生態学的観点から縦横に論じられ、地域の機関や住民に水車見直しの気運を一気に盛り上げることとなった。このような方向と成果は今日でも産業遺産保存運動の理想的モデルとされている。

81 年には西日本水車協会を創立し（99 年から日本水車協会に改称）、地域や全国の人々に水車の産業遺産的価値を訴え、大きな成果を上げられた。朝倉の重連水車は 90 年には国指定史跡とされた。さらに先生の功績は水車の保存だけではなく、物を残しても、それはいずれ朽ち果ててしまう。先生はその点を危惧され、水車製作技術の継承の重要性を指摘され、水車大工の養成さらには社会的地位向上のための顕彰活動も実践され、二人の水車大工の国家表彰を実現された。こうした一連の功績が認められ、90 年には産業考古学会から「産業遺産保存功労者」表彰を受けられ、2002 年には西日本新聞社から「西日本文化賞」が贈られている。

水車に惚れ、その価値を全国的に啓蒙し、それらを保存・活用され、人材育成まで繋がる未来志向の産業考古学を創り上げた香月徳男先生は稀代の傑物であった。合掌。



写真 香月氏が保存に尽力した朝倉三連水車

< 会報第6号・目次 >

【巻頭言】

日炭高松二坑旧山神社の鳥居保存活動に思う
.....瓜生浩義 1

旧伊藤邸、飯塚市が買上げ保存へ

.....深町純亮 4
高蔵山堡塁探訪記

.....砂場一明 5

【報告】

九州伝承遺産ネットワーク協議会 その理念
と方向坂本道徳 2

九州伝承遺産ネットワークの発足を祝して
.....幸田亮一 3

NPO法人大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラ
ブ活動紹介永吉守 3

【お知らせ】

書籍・文献紹介 6

年次総会開催について..... 6

【追悼】

香月徳男氏を偲ぶ.....池森寛 7

今後の予定 8

(お知らせ内の各イベントは、頁末の当会ウェブサイトからもご確認ください)

今後の予定

当会の今後の予定は以下の通りです。

月・日	活動内容
6月17日	年次総会(福岡県東峰村)
7月	
8月	
9月	
10月	
11月 16~17日	全国産業観光フォーラム in 北九州2006

【予定は都合により変更する事があります】

会費納入・ご寄付のお願い

当会は事務局体制や会報を充実させるため、今後は会則により年会費を個人会員2000円、団体会員は5000円徴収させて頂く事になりました。産業考古学発展のため、非会員へも送付する方針は維持しますが、当会の趣旨をご理解頂き、会費納入或いはご寄付についてどうぞ宜しく願いたいします。

会費・寄付受付口座
福岡銀行大牟田支店 (店番691)
普通 1914369
九州産業考古学会

< 編集後記 > またしても会報発行が遅れたことを心よりお詫びする。これには書籍紹介にも挙げられた『北九州の近代化遺産』発行作業による遅れがあった。事務局の編集担当がもう少しいれば、と考えることは数度あるが、今回も何とか発行することが出来た。次回から編集体制を一新し、定期的な発行を心掛けたい。(市原)

九州産業考古学会事務局 〒 807-0022 福岡県遠賀郡水巻町頃末北4丁目 11-7-204 青地学 気付
TEL&FAX : 093-202-5054 E-mail : aochimanabu@yahoo.co.jp
URL : http://cgi.f17.livedoor.ne.jp/~heritage/